

活 動 記 録 書

開催日： 令和7年3月6日(木) 天候 曇り	開催テーマ： 梅を訪ねて新林公園
開催場所：藤沢市	記入者：浜辺隆文
参加人数： 会 員 24 名 ビジター 1 名 計 25 名	
実施内容（実施の項目、方法、効果・成果、宿題 など）： コース：湘南江の島駅 ～常立寺～ 一遍上人地蔵堂跡～本蓮寺～密蔵寺～馬喰橋～大源太の辻～新林公園 ～石上（砥上）公園～藤沢駅江ノ電第1ビル前（解散） 当日は湘南モノレール湘南江ノ島駅5階テラスに25名が集合。快晴の日にはここから富士山がきれいに見えるそうだが、あいにく曇天で富士山は見ることはできなかったが、昨日の雨も上がり、三寒四温の候、やや肌寒さを感じるも、ますますの天気恵まれた。今回は大山詣での帰りに江ノ島弁財天に参詣する旅人で賑わった江の島道約4kmを歩いた。 駅を出て間もなく日蓮宗龍口山常立寺に着く。この場所は、鎌倉時代「龍ノ口刑場」といわれ、処刑された人々を葬った墓域。元の国使・杜世忠等5人が来日したが、8代執権・北条時宗の命により斬首された。この霊を弔うために建てられたのが「元使塚」で、毎年大相撲藤沢場所にあわせ、モンゴル出身力士が参拝に詣でている。又、境内には沢山の枝垂れ梅があり、見事な花をつける。大輪の八重咲「ふじぼたん」、「おもいのまま」「紅梅」「あおじく」などの梅を鑑賞する。 この江の島道沿いには多くの江ノ島弁財天道標がある。この道標は、鍼師の杉山検校が、旅人が道に迷わないように寄進したもので現在11基残っている。道中、西行もどり松、一遍上人地蔵堂跡（片瀬の浜の地蔵堂）に立ち寄る。一遍上人はここで踊り念仏を行った。板葺きの高床づくりの踊り屋では鉦鼓（しょうこ）をならし、足を高く挙げ床を踏みならし踊り、多くの群衆が集まり盛況であった。 次には推古三年（595）創建の古いお寺である本蓮寺に立ち寄る。鎌倉時代日蓮上人の弟子日秀より本蓮寺と改名され日蓮宗に改宗された。当寺には鎌倉幕府6代将軍職を罷免された宗尊親王が帰洛の折に立ち寄ったときに詠んだ一首が今に伝わっている。 次には鎌倉時代末期創建の真言宗大覚寺派の密蔵寺を拝観する。本尊は愛染明王で、相模国準四国八十八ヶ所十七番霊場の本尊である。木暮実千代さん（女優）が植樹した桂の木ということで愛染かつらと名づけられた。又、白い花のかたまりが雪が積もったようなので、雪にたとえられ、名前が解らなかったのが「なんの木じゃ」と呼ばれたナンジャモンジャの木がある。 途中、源頼朝ゆかりの馬喰橋、鎌倉道と江の島道の合流分岐点である三叉路で庚申塔のある大源太の辻を通り梅のきれいな新林（しんばやし）公園に着く。新林公園は昭和55年にできた都市型公園で総面積が東京ドームの4倍にあたる面積を持ち、咲き誇る梅を鑑賞満喫した。園内にある福原家長屋門は平成20年藤沢市渡内（わたうち）から移設されたもので、福原氏は三浦一族の出身。足利公方・上杉管領・小田原北条・徳川幕府の時代、渡内の豪農として権勢をふるった。 最後に藤沢市南部の石上（砥上）公園を訪れる。一角にはこの集落に散在していた庚申供養塔や道祖神などが集められている。この辺りは、奈良・平安時代の記録に土甘郷（とかみごう）とあり、鎌倉時代に鵜沼を通る道が出来た頃は砥上（とがみ）ガ原と呼ばれ、やがて砥上から石上の集落名が出来たと言われる。鵜（くげ、くぐい）は白鳥の古名。	
参加者の状況・意見など 三寒四温の候、心配された雨も上がり、シニアには約一万歩のやや長旅の散策であったが無事行事を終えることが出来た。江の島道は当時を偲ばせる雰囲気・史跡が残っており楽しむことが出来た。	
次回の予定： ・令和7年4月3日(木)10時 京急新大津駅集合 ・テーマ：古東海道の古刹めぐり	